

委員会だより

議会広報・広聴の調査研究、改善を検討 議会だより編集委員会

議会だより編集委員会は、議会情報の公開・広聴に関して、8月7日、8日に石狩市、北広島市、旭川市を視察し、各種取り組みを比較参考にしなから、改善および検討を進めています。

本市議会の議会だよりは、全国でも珍しく議員自身が編集校正作業を行っています。石狩市では、専門業者が編集作業や掲載記事の提案を行い、見やすさや市民の興味を引く工夫など、既読率向上につながる改善を進めています。北広島市は、一般質問の内容や体裁、写真やグラフなどを載せ、見やすさを工夫し、各議員の責任において作成することで、編集作業の負担を軽減しています。

本市議会のホームページは導入が早く、現在のシステム進化に対応できていません。スマートフォンでも議会中継を視聴できるようにするなど、議会の情報が早く広く深く、市民に届くよう改善を進めます。



本市議会の広聴活動は、議会フォーラムなど主に議会運営委員会に対してですが、旭川市は広聴広報委員会が意見交換会などを企画・運営しています。市民の声を市政に反映できる、しやすい広聴活動とは何か、議論中です。

(千田)

「防災先進都市」をめざして 研修会開催

近年、本市でも異常気象と思える現象が発生しています。そこで元天気キャスターであり、現在北海道総務部危機対策局職員の高田博之氏を講師に迎え、「登別市防災ナンバーワンをめざして」と題して議員研修会を行いました。

講演では、北海道有数の火山近接地、大雨地帯、そして30年以内に震度5強や10m近い津波の来襲の可能性がある本市の自然災害リスクから、登別市は北海道一の防災先進都市になるとありました。

東日本大震災の事例では、想定外の地域への浸水や「津波でんごん」に触れ、想定にとらわれず最善を尽くし率先して避難すべきと説き、子どもの防災教育は後世につながる効果があると力説されました。

本市が防災ナンバーワンの都市になるためには、①火山・地震・津波・大雨のリスクを知る②2012年の大停電の経験を活かした平時からの備え



③いざという時の動きのための防災教育④行政と市民の役割分担と共助できる市民、この4点のソフト対策が大切とし、これらは市民の安全・安心に加え、新たなまちの姿につながる講演でした。

(松山)

行政視察の受け入れ状況

毎年、全国各地の議会が本市を視察しに訪れています。昨年度は、合計で26団体、239名が訪れました。

左の視察項目を見ると、本市は、有名な観光地としてのさまざまな取り組みや、議会改革の先進地としての取り組みがそれぞれ4割以上を占め、注目されていることがうかがえます。

また、視察を受け入れる時は、市内での宿泊をお願いしており、経済効果や観光PRとしての側面も期待できるため、積極的に受け入れています。

平成28年度 地域別受け入れ状況

地域	都道府県	団体数	人数
	北海道	2	29
東北	宮城、秋田、山形、福島	7	57
関東	茨城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川	9	79
中部	石川、長野、静岡、愛知	4	34
近畿	兵庫	1	5
四国	香川、愛媛	2	25
九州	大分	1	10
	合計	26	239

主な視察項目	件数
・観光振興 ・外国人観光客の誘客 ・札幌高原館（廃校利用） など	12
・議会改革 ・議会サポーター制度 など	11
・登別市小中学校英語推進プログラム ・土曜授業推進事業 など	3